

高橋あきら物語

流山で育って57年。当時は流山町でしたが、遊び場だった山が次々住宅街に…『街』の成長にあわせて、看護師の妻と3女1男を育て上げました。

流山市父母会連絡会協議会の代表としてご飯（白米）持参が必要だった保育園の給食改善を求め、お父さん、お母さんと一緒に署名運動し、完全給食が実現しました。また、保育園や学童保育を利用しやすいように運動を進めてきました。8年前の福島原発事故後、『放射能ホットスポット』となった本市で、放射能実態調査など地域での取り組みにとどまらず、市の取り組み強化を迫る姿は、現職市議が「放射能の人」と記憶するほどです。

妹尾元市議、徳増市議が東部地域で積み重ねた住民の要求実現の力、そして全市的に築いた暮らしを守る運動を次世代へ引き継ぐため、市議会へ初の挑戦です。



保育園に通う孫7人の夢を奪うような政治の大改革へ、今日も街頭に立って訴えます。

保育園に通う孫7人の夢を奪うような政治の大改革へ、今日も街頭に立って訴えます。

市民とともに 東部地域に市政の光を

●住民の声を届け、 「住みよい東部地域」へ全力

墓地等の開発規制、国道6号線南柏駅前交差点改良、南柏駅西口エレベーター設置…東部地域のまちづくりの前進には、必ず市民と日本共産党の運動がありました。

●暮らしを守り抜く



事務所を開設して、税申告の相談や失業、DV被害など様々な相談の解決にあたってきました。

また情報発信の拠点として、子どもからお年寄りまで住民に寄り添い、悪政に対決します。

高橋さんをすいせんします

3期12年、長年のご支援に心から感謝申し上げます。

今期で引退しますが、東部地域の住民の声を届ける確かなパイプ役として高橋さんとバトンタッチします。

高橋さんは、地域の住民運動だけにとどまらず、無料塾の運営や生活保護の充実などにも粘り強く、そして誠実に関わってきた方です。また、日本共産党は議員個人任せにせず、集団で問題を解決する力を持っていますから、おおたかの森地区の新設学校建設の経費高騰を背景に、東小学校のプール・校庭の改修が延期されそうになった際、議会で唯一、撤回を求め、許しませんでした。この党の一員である高橋さんだからこそ、普通の新人以上の役割を發揮できます。みなさんの大きなご支援を心よりお願い申し上げます。

徳増きよ子



徳増議員から バトンタッチ



日本共産党

高橋あきら

プロフィール

- 1951年生まれ。小学5年から流山で育ち、小金高校卒業。43年間、印刷会社で勤務
- 流山市保育園父母会連絡会会長、田島自治会役員などを歴任し、防犯パトロール隊で活動中
- 趣味は卓球、溪流釣り、登山、映画鑑賞、Facebookで発信中
- 向小金1丁目に妻と在住。☎090-6565-1749
- メールアドレス：akr-takahashi@jcom.zaq.ne.jp



日本共産党流山市議団
<http://www.nagareyama-jcp.jp/>

国政
地方政治

願いに応える政治にチェンジ!!

あべ政治NO!

消費税10%増税ストップ!

強行採決を繰り返す安倍内閣、消費税増税、改憲、武器の爆買も明言。暴走が目に残ります。安倍政治にレッドカードを突きつけ、国民一人ひとりの手で、8時間働けば普通に暮らせる社会、99%の国民に向き合った政治を実現しましょう。



ちょっと住みよい流山

高橋あきら含めた日本共産党 提案 します

いのち を守り、 災害に強い街づくり

- リフォーム助成を創設し、安心して住み続けられる住宅の確保
- 築50年を超える東小学校など老朽化した公共施設の計画的な改修・更新

老後 も安心して 暮らせる街づくり

- JR常磐線より南側に地域包括支援センターを設置し、在宅医療と介護の連携強化
- 年金でも入れる特養ホームの建設、認知症入所施設の拡充

子ども の誕生を喜び、 子育て応援の街づくり

- 保育士限定の返済不要の奨学金を多職種にも拡大
- 多子世帯の国保料・給食費等の負担軽減
- 妊娠・出産・育児の支援拡充

身近な 声 が活かされる 街づくり

- ぐりーんバス、路線バスなど公共交通網の整備・充実
- 木谷工業前交差点の改善、右折信号やカーブミラーなどの設置など安全対策の強化と計画的な道路補修・改修



活用できる財源はあります

- 人口急増で5年で31億円の市税収入の増加。
- 何でも使えるため込み金（財政調整積立基金）45億円。

私の父は、定年退職後、子どもたちのために何ができるかと、長い間考え抜き、地元流山の市議会に日本共産党から挑戦すると聞きました。いつでも挑戦する、無理ではなく、どんなときも可能性を自分で見出していく姿勢を教えてくださいましたのが両親です!!! おかげさまで、娘の私はたくましく、ときに図々しいくらい(笑)、生き抜いてこれたと感謝しています。

私が格闘技の選手をしていたときも、一番のファンとして応援してくれたのも、父でした。今度は私が応援する番。

お父さん、頑張れ!!!

あ、私は父似とよく言われます。あまり嬉しくはありませんが。。。

高橋藍